

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

## 袴田京太郎「陰の彫刻」 - 開廊20周年記念展 Vol.5

Kyotaro Hakamata : *Sculptural Negative*[右] 袴田京太郎 《ザンダー》(部分) 2023 | ジェスモナイト 他  
[左] 袴田京太郎 《俺の貧しいことば》2023 | デジタルプリント

## 【展覧会概要】

展覧会タイトル：袴田京太郎「陰の彫刻」 Kyotaro Hakamata: *Sculptural Negative*

会期：2023年9月16日[土] - 10月14日[土] \*日・月・祝 休廊

会場：アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間：11:00 - 18:00 [土曜日 - 17:00]

## ◆ 関連イベント 9月16日[土]

14:00-15:30 対談【福元崇志(国立国際美術科 主任研究員) x 袴田京太郎】

\*要予約・先着20名 (ご予約はメール または お電話にて)

15:30-17:00 レセプション

## 【作家ステイトメント】



## 陰の彫刻 (つくる喜び)

ずっと彫刻の複製の問題を作品化してきた。複製は合理的にもものをつくると同時に、偽物を生み出すといういかがわしさを併せ持つ。その矛盾にはものをつくることの際(キワ)に触れているというリアルな感覚があった。そうして生まれたものを「陰の彫刻」と呼ぶ。

ものを生成する作業ではあるが創造とは言い難い「複製」、その即物的で退屈な作業の中に、実は強い「つくる喜び」があることに最近気がついた。それは「芸術」とは程遠い、厳格でオートマチックな「作業」であればこそその「喜び」なのだ。それがなければこんな苦行のような作業を好んで選んだりしなかった。

彫刻の素材は作者の手に触れる前からすでにイメージを持っている。つくるということはそれを破壊し、別のイメージに作り変えることだ。そこに生まれたイメージの良し悪し以前に、新たなイメージが出現することそのものに驚きがある。粘土が人の唇になる。布がカーテンになり不穏なスペースをつくる。人参や大根が文字・ことばになる。アクリル板がカラフルなストライプになる。それらの強いイメージが物質に乗り移る瞬間を、できるだけ無傷のまま取り出したい。いかがわしい「陰の彫刻」は、明快なイメージと、抜き差しならない物質との接点に存在する。

(2023.08.17 袴田京太郎)

## 【本展について】

袴田京太郎の新作個展「陰の彫刻」を開催します。

彫刻の表面と見えない内部との対立関係や、「複製」をテーマに本物と偽物の関係を問い、袴田は作ることと壊すことの表裏一体性に着目しながら「彫刻が成立する本質の問題」を探究し続けています。工業製品といった「彫刻らしからぬ素材」を独特のバランス感覚でユーモラスに造形化した作品群は1990年代より常に注目を集めてきました。2007年に自身の家族をモチーフとする4点組の作品《Families》を手がけて以降、カラフルなアクリル板を積層させた人型像や、既製品の一部を切り取って造形しなおす「複製」シリーズの制作を開始。近年は、20世紀モダニズムの彫刻や肖像画をモチーフに、「複製」を通して社会的なリアリティと対峙する場を開く作品制作に取り組んでいます。本展では、20世紀初頭にドイツの写真家アウグスト・ザンダーが捉えた盲目の二人の子ども像をモチーフに制作を展開させた大型作品や、大根や人参で作った文字の写真作品など、メディアに富む約15点の新作で展示を構成。今年春の富山県美術館での個展に続き、「複製」する行為の先に袴田が見出し始めたユニークなコンセプト「陰の彫刻」をご紹介します機会となります。

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント) | 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 八木・大場] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

## 袴田京太郎「陰の彫刻」 — 開廊20周年記念展 Vol.5

Kyotaro Hakamata : *Sculptural Negative*

### 【 Artist CV 】

袴田京太郎 Kyotaro Hakamata

1963 静岡県生まれ  
1987 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業  
1994-95 文化庁芸術家在外研修員として渡米、  
ペンシルヴェニア州フィラデルフィアに滞在  
1996-97 五島記念文化賞美術新人賞受賞による海外研修として  
中国、チベット、ネパール他に滞在  
2011 第22回タカシマ屋文化基金タカシマ屋美術賞受賞  
2012 平成24年度静岡県文化奨励賞

### 【 近年の主な個展 】

2023 「複製する (陰の彫刻)」 富山県美術館 TADギャラリー、富山  
2020 MA2 Gallery、東京 ['16, '12]  
2019 「循環しないレモンイエロー」 カサヤの森現代美術館、神奈川  
2018 「やわらかい、突き刺さる」 Mizuho Oshiroギャラリー、鹿児島  
2016 「立つ女—複製」 void+、東京  
2014 「人と煙、その他、」 平塚市美術館、神奈川  
2012 「布袋と葡萄」 AISHO MIURA ARTS、東京  
2011 「Shizubi Project 1 人と煙と消えるかたち 袴田京太郎」 静岡市美術館、静岡  
2010 「人と毛布と熊と粘土」 日本橋高島屋美術画廊X、東京  
2009 「変成態—リアルな現代の物質性 vol.5」 gallery αM、東京

### 【 近年の主なグループ展 】

2023 「みまちがう水」 MA2 Gallery、東京 ['17, '11]  
2022 「六甲ミーツ・アート 芸術散歩」 神戸、兵庫 ['13]  
2021 「Domani・明日展」 国立新美術館、東京  
2020 「αM+vol.1 国立奥多摩美術館 “国立奥多摩湖”  
〜もちつもたれつ奥多摩コイン〜」 gallery αM、東京  
2019 「ACG Villa Kyoto Vol.002 袴田京太郎x 石塚源太」 ACG Villa Kyoto、京都  
2016 「つらなるかたち」 清津倉庫美術館、新潟  
2015 「線の美学」 愛知県美術館、愛知  
2013 「ミニマル／ポスト ミニマル 1970 年代以降の絵画と彫刻」 宇都宮美術館、栃木  
2012 「色めく彫刻—よみがえる美意識」 群馬県立館林美術館、群馬  
「Relation: 継がれるもの—語りえぬもの」 武蔵野美術大学美術館、東京  
「Melting Zone」 アートコートギャラリー、大阪  
2011 「As Long As Rainbow Lasts」 SOKA Art Center、台北、台湾  
「OAP彫刻の小径2012 human/humor」 OAP公開緑地内、大阪  
2010 「椿会展 Trans-Figurative」 資生堂ギャラリー、東京 ['09, '08, '07]  
2009 「ミマクル—ミラクル 夏休み子ども美術館」 府中市美術館、東京  
「ドローイング—思考する手のちから」 武蔵野美術大学 gFAL、東京

### 【 展覧会企画 】

2012 「世界と孤独」 日本橋高島屋 美術画廊X、東京

### 【 主な作品収蔵先、設置場所 】

愛知県美術館、宇都宮美術館、佐久市近代美術館、横浜美術館、資生堂アートハウス、西南学院大学、  
ファーレ立川、パイオニア総合研究所、インターコンチネンタルホテル大阪、コンラッド東京、  
渋谷エクセルホテル東急、エルザタワー、横浜ポートサイトプレイス、他



【参考画像】 袴田京太郎《アラニス》(部分)  
2014 | 撮影：木坂美生



【参考画像】 個展「複製する (陰の彫刻)」会場風景  
2023 | 富山県美術館 TADギャラリー、富山  
撮影：加藤健